

臨床研修カリキュラム

養成コース [脳神経外科]

全体目標:脳神経外科診療の社会的ニーズを認識しつつ、日常診療で頻繁に遭遇する主な脳神経外科疾患や脳神経の病態に適切に対応できるよう、脳神経外科領域の基本的な臨床能力(態度、技能、知識)を身につける。

個別目標:

	2カ月	3ヶ月以上(再ローテーションを含む) 左記に加えて下記の事項ができる
	A. 一般	
1	医療面接、神経学的診察ができる	
2	適切な診療録の記載ができる	
3	小児の神経学的診察を理解することができる	
4	頭部CT、MRIの適応の判断と系統的な読影ができ、 解釈を述べることができる	
5	画像カンファレンスで画像所見のプレゼンテーション を行うことができる	
6	病棟回診で症例のプレゼンテーションを行うことがで きる	
7	創傷管理について学び、実践することができる	
8	点滴などの周術期管理を行うことができる	
9	医療面談に同席し役割を分担することができる	
10	脳腫瘍の病態を理解し、診断し治療方針の立案がで きる	
11	脳卒中の病態を理解し、診断し治療方針の立案がで きる	
12	頭痛の病態を理解し、診断し治療方針の立案がで きる	
13	けいれんの病態を理解し、診断し治療方針の立案が できる	
14	患者、コメディカル、同僚を尊重してコミュニケーション を取ることができる	
	B. 管理、検査手技	
1	腰椎穿刺を行うことができる	
2	脳室ドレナージ、脊髄ドレナージの管理を学び、実 践することができる	脊髄ドレナージを留置することができる
3	血管造影検査に参加し、読影を行うことができる	血管造影検査で、シースの留置を行いカテーテルの誘導 を行う
	C. 手術手技	
1	以下の手術に助手として参加する ・脳腫瘍摘出術 ・経鼻内視鏡手術 ・脳血管外科手 術(脳動脈瘤クリッピング術、脳動静脈奇形摘出術、 バイパス手術) ・脊髄脊椎手術 ・小児脳神経外科 手術 ・機能的脳神経外科手術	
2	血管内手術に助手として参加する	
3	手術で頭皮の切開、縫合を担当することができる	
4	穿頭術を術者として担当することができる	開頭手技を行うことができる 硬膜切開を行うことができる

方略:

1.病棟業務とカンファレンス

- 上級医・指導医の指導のもと、5人程度の患者を受け持ち、受持医として主体的に診療する

- 病棟回診…1日2回；受け持ち患者のプレゼンテーションを行う
- 術前検討会…週1回；脳神経外科、脳卒中科の全体カンファレンスに参加し受け持ち患者のプレゼンテーションを行う。
- 神経放射線カンファレンス…週2回；脳神経外科、放射線科による合同カンファレンスに参加し、受け持ち患者のプレゼンテーションを行う。
- 抄読会…週1回。ローテーション中1回発表する。

2.手術への参加・実施

- 脳神経外科手術の流れを理解し、手術の補助として参加する。特に開閉頭の基本手技に習熟する。
- 術中モニタリングの意義を理解し、電極や機器のセットアップと測定に習熟する。
- 慢性硬膜下血腫の血腫洗浄術や脳室外ドレナージ術といった局所麻酔下の手術を術者として経験し基本的な脳神経外科の診断、治療管理を学ぶ。
- シャント手術や頭蓋形成術のような全身麻酔下の基本手術も習熟度に応じて経験可能。

3.学会参加

- 地方会やセミナー、手術カンファレンス等に積極的に参加する。国内の専門学会の雰囲気を経験する。
- 自ら進んで症例報告などの学会発表や論文作成に取り組む。

評価：

1.EPOCⅡによる評価

- 修了時に評価表（研修医の経験内容等に関する自己評価および脳神経外科の指導体制等に関する評価を記載）を提出。評価表は脳神経外科のスタッフ・シニア以上のレジデント、全てが共有する。

2.面接評価

- ローテーション中に養成コース長による面接評価を行う。